

令和5年度
事業報告

社会福祉法人
飯塚市社会福祉協議会

1. 事業の総括

新型コロナウイルス感染症も5月には5類感染症に変更となり、社会全体も徐々に安堵とともに明るい雰囲気になってきました。しかし、私たちが目指す地域共生社会を支える地域福祉の動きは、未だ活発になってきているとは言えない状況であります。そのような中であってこそ、地域福祉と介護福祉事業の重要性を再認識しながら、新型コロナ終息後の「誰もが安心して暮らせるまちいづか」の実現に向けての再始動のため、各種事業に取り組んでまいりました。

主な事業実績は、次のとおりです。

- (1) 地域福祉関連事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響による行動制限が緩和され、各地の大規模な行事・イベントが再開されるようになりました。各地域においては、感染対策をしながら継続的な活動が行われるとともに、住民の創意工夫によりコロナ禍で新たに顕在化した課題の解決のための活動も生まれています。

本会は、「誰もが安心して暮らせるまちいづか」を目指し、地域包括システムの位置づけである生活体制整備事業の第2層協議体の活性化に取り組み、地区社協や自治会、民生委員・児童委員、福祉委員の皆さんの協力を得ながら、「社会資源の情報収集」、健康寿命へ繋げるため、ふれあい・いきいきサロンへの「介護予防の講師派遣」、「高齢者の見守り活動」など連携した取り組みを行いました。

また、自立支援と相談援助につきましては、特に、判断能力が低下した方への福祉サービスが円滑にすすめられるよう、身近な相談窓口として迅速かつきめ細やかな支援に努めました。

日常生活自立支援事業や法人後見事業を通じて、普段と変わらず着実に取り組みを行いました。ボランティア活動や福祉教育の推進につきましても、感染予防対策を講じながら関係機関や団体の皆さんと共に連携して取り組みをすすめました。

そして、社会福祉法人の公益活動として結成された「飯塚市社会福祉法人地域公益活動連携協議会」では、各法人の強みを生かし、実践可能な福祉に関わる地域貢献活動に取り組みました。

- (2) 介護保険等関連事業では、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、「感染予防・まん延防止」に向け、感染症対策委員会を立ち上げ、県が実施する抗原定性検査キット配布事業の活用を継続し、引き続き徹底した基本的感染予防対策を図りました。さらにいつ起こるか分からない自然災害や、新たな感染症等に対応すべく事業継続計画（BCP）を作成し、安心・安全なサービスの提供に努めました。

4月には訪問介護事業の整理統合により、更なる事業の充実、並びに効率的事業を実現し、さらに各介護保険事業所では指定更新に向け、より一層、指定基準を遵守し適正な事業運営に努めました。

また、利用者及び従業者の人権擁護のため、虐待防止委員会・身体拘束等適正化委員会を開催し、研修会を実施するなど職場全体で取り組みました。

さらに働きやすい職場環境作りのため、ICT（情報通信技術）の活用により業務負担軽減及びペーパーレス化を進め、また実習生の受け入れや外国人労働者雇用について、実際に外国人雇用を行っている事業所を見学するなど、人材の確保に繋がるよう努めました。

そして、新たに『飯塚市ヤングケアラー・支援対象児童等訪問支援事業』の受託を開始し、積極的に新事業へ参入するなど、経営改善に向けて取り組んでまいりました。

- (3) 法人運営関連事業では、数年続いた新型コロナウイルスも令和5年5月8日には感染症法上で5類に引き下げられ、停滞していた事業活動もコロナ禍以前のように回復してきましたが、感染状況は続いているため、各事業及び管理施設等を含み、地域福祉の前線に立つ社協職員の感染予防・防止対策等に向けた取り組みなど、後方支援活動にも努めてまいりました。

また、今年度より実施義務となったアルコールチェック対策をはじめ育児休業・出生時育児休業（産後パパ育休）に関する研修の実施、2024年4月からの労働条件明示のルール変更への対応など、労働環境の整備などにも努めてまいりました。

2. 地域福祉関連事業

(1) 生活支援体制整備事業の推進

生活支援コーディネーターと協議体

地区担当の生活支援コーディネーターが、地区社協、地域福祉ネットワーク委員会、自治会、民生委員・児童委員、福祉委員、老人クラブ、包括支援センターなどに呼びかけ協議体を組織し、福祉座談会やアンケート調査などを通して地域の福祉課題を抽出するとともに、地区の社会資源調査・担い手の育成・元気高齢者の社会参加など、多様な主体からサービスが提供できるような仕組みづくりを協議しました。

今年度は協議体活動を開催することができた地区も増え、各地区で様々な活動を行いました。包括支援センターが主催する地域ケア会議には生活支援コーディネーターとして参加をしました。

協議体においては、概ね生活圈域を範囲とした第2層協議体と市全域を共有する第1層協議体があり、各地区の第2層協議体代表者と生活支援コーディネーターとで行う会議を「生活支援体制推進会議」と称し、年2回開催することができ、第1層協議体全体で本事業について理解を深めることができました。

(2) 小地域福祉活動

① 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会活動との協働

小地域福祉活動推進の基盤となる実践として、市内18ヶ所の地区社協、20ヶ所の地域福祉ネットワーク委員会の活動を日常的に支援しました。具体的な活動としては、ふれあい・いきいきサロン、福祉委員研修会、ねんりんバスハイク、ひとり暮らし高齢者会食会、ふれあい電話、長寿弁当、グラウンドゴルフ大会、男性料理教室、三世代ウォーキングなどが取り組まれています。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染の行動制限が緩和され、行事やイベントが再開されるようになり、十分に予防対策を行いながら活動を推進しました。

② 福祉委員活動（地区別福祉委員研修会）

高齢者の見守りなど各種地域福祉活動を目的に市内全域に配置している福祉委員（約570人）の活動強化を図り、地域の要援護者見守りネットワークの活動を支援するため、福祉委員、民生委員・児童委員、自治会長、地域福祉ネットワーク委員会委員、地区社協役員などを参加対象として、市内13ヶ所の地区で、年間2回ずつ福祉委員研修会を実施しました。また、多数福祉委員が在籍する地区につきましては、少人数に分け研修会を実施しました。

③ 「ふれあい・いきいきサロン」活動

「ふれあい・いきいきサロン」（市内189か所）について、その代表者や世話人を対象に、サロン活動の充実・発展に資する情報の提供や交流に関する「ふれあい・いきいきサロンお世話人研修会」を7月20日、穂波交流センターで開催しました。

新型コロナウイルス感染予防対策を行い、孤立化を防ぐため少しずつではありますが、サロン活動の再開を目指し、各地区（校区）社協を通じて、サロンへの助成金の交付も行いました。

(3) ふくおかライフレスキュー事業の取り組み

生計困難者が公的な制度やサービスなどを受けられるようになるまでの間、必要に応じてライフラインの復旧や一時的な食事の提供、ならびに関係機関との連携会議などを通して支援を行いました。令和5年度の本会の支援件数は11件でした。

(4) 社会福祉法人の地域公益活動の取り組み（飯塚市社会福祉法人地域公益活動連携協議会）

飯塚市内にある児童・障がい者・高齢者・地域福祉の4分野の社会福祉法人が集まって結成された飯塚市社福連は、「地域における公益的な取り組み」を行うために平成29年10月に設立されて以来、本会が事務局を務め、現在では26法人が加入しています。

今年度は、九州北部豪雨災害を受け被災された「東峰村」に5日間、災害ボランティアとして活動を行い、「久留米市」には、「ボランティアバスの運行」を行い2日間、近隣市町の社会福祉法人と共に活動を行いました。また、地域貢献事業として、小中学校の福祉体験学習などへの支援や地域防災活動「防災運動会」への参加と支援を行いました。

(5) 認知症サポーター養成講座

飯塚市の受託事業として「認知症サポーター養成講座」を継続して取り組みました。令和5年度は、延べ41回の講座を開催し、1,194人のサポーターを養成しました。(延べ13,076人)新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、講座を開催しました。

受講団体名	開催日	参加者(人)
穂波地区福祉委員	4/18	34
脳元気教室：飯塚片島	4/24	18
福専寺①	5/3	9
筑穂地区福祉委員研修会	5/9	47
友の会	5/17	9
片島地区福祉委員研修会	5/19	14
明光寺 婦人部	5/20	20
鎮西地区福祉委員研修会	5/23	20
天空の杜デイサービス	5/24	13
庄内地区福祉委員研修会	5/26	19
脳元気教室：潁田	5/30	28
潁田地区福祉委員研修会	5/30	23
立岩地区福祉委員研修会	6/1	47
鯉田地区福祉委員研修会	6/8	25
菰田地区福祉委員研修会	6/14	34
幸袋地区福祉委員研修会	6/16	52
飯塚地区福祉委員研修会	6/20	27
神の浦いきいきサロン	6/22	14
市民講座①：立岩交流センター	6/24	8
飯塚東地区福祉委員研修会	6/28	42
二瀬地区福祉委員研修会①	6/28	42

受講団体名	開催日	参加者(人)
二瀬地区福祉委員研修会②	6/30	38
二瀬地区福祉委員研修会③	6/30	35
楽市校区民生委員	7/20	11
飯塚東地区民生委員	8/3	19
福専寺②	8/19	15
脳元気：筑穂	8/23	24
氷屋いきいきサロン	8/24	11
九州労働金庫飯塚支店	8/29	13
市民講座②：ゆめタウン	9/23	64
(株)ミライズ	10/19	9
脳元気教室：二瀬	12/4	29
近畿大学九州短期大学	12/15	37
脳元気教室：菰田	1/16	28
飯塚市役所①	1/17	54
飯塚市役所②	1/17	52
飯塚市役所③	1/26	55
飯塚市役所④	1/26	50
市民講座③：庄内	1/27	12
菰田地区認知症声かけ訓練	2/18	74
大分駅前団地	3/17	19

フォローアップ研修

過去に認知症サポーター養成講座を受講した方を対象にフォローアップ研修を行いました。

キャラバンメイト（サポーターを養成する指導者）を対象としたフォローアップ研修は、認知症当事者の方からお話をお聞かせいただき今後の講座に向けての学びとなりました。

対象者	開催日	参加者(人)	講師
キャラバンメイト フォローアップ研修	9/23	20	「メッセージ&トークセッション」 講師：長崎県佐世保市 壺行の会 福田人志・中倉美智子
認知症サポーター フォローアップ研修	11/18	13	「認知症サポーター養成講座フォローアップ研修」 講師：ケアハウス ジョイハート 施設長 久家 義明氏

(6) 権利擁護センター事業

権利擁護センターでは、認知症や知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が不十分な人を福祉的側面から支援する「日常生活自立支援事業」と、法的な側面から本人の権利を守り生活を支援する「法人後見事業」を行いました。

利用者の推移など

ア 新規利用者数

〔権利擁護事業〕 14人（令和5年度・利用者数：82人）／解約者13人

〔法人後見事業〕 なし（令和5年度・利用者数：3人）／終了者0人／類型：後見1人・
保佐1人・補助1人

イ 新規相談者数 27人

ウ 年間延べ相談援助件数 2,766件

エ 新規生活支援員育成者数 1人（令和5年度・生活支援員数：6人）

オ 運営審議会の開催

6回（4/24、6/15、8/24、10/18、12/26、2/28）

カ 本所・支所の利用者数

（単位：人）

	本所	穂波支所	筑穂支所	庄内支所	颯田支所	計
ほっとサービス	11	3	1	0	0	15
日常生活自立支援	40	14	3	4	3	64
法人後見	1	1	0	0	1	3
計	52	18	4	4	4	82

(7) ボランティアセンター事業

① ボランティアに関する相談・紹介などコーディネート業務

個人・団体より相談を受け、192件のコーディネートを行いました。

② ボランティアの養成

ア 手話奉仕員養成講座（入門課程）

4月6日から8月24日（通算20回 毎週木曜日）、飯塚市の委託を受けて飯塚市聴覚障害者協会・飯塚市手話の会の協力により44人の受講者を得て開催しました。

修了者：36人

イ 手話奉仕員養成講座（基礎課程）

9月7日から2月22日（通算22回 毎週木曜日）、飯塚市の委託を受けて飯塚市聴覚障害者協会・飯塚市手話の会の協力により41人の受講者を得て開催しました。

修了者：36人

ウ 音声訳ボランティア養成講座

視覚障がい者の方々に各種印刷物や図書などをテープ・CDとして作成した情報を提供する「音声訳（朗読）ボランティア講座」を下記のボランティア団体の協力を得て開催しました。

- ・音訳いづか 講座 6月に開催 受講者8人 修了者8人
- ・声のボランティアサークル 穂声 講座 10月に開催 受講者7人 修了者7人

エ 点訳ボランティア養成講座

視覚障がい者の方々に暮らしに関わる情報提供を行う「点訳ボランティア養成講座」を下記のボランティア団体の協力を得て開催しました。

- ・点訳ボランティア キャンドル 講座 2月に開催 受講者5人 修了者5人
- ・点訳 さくら 講座 3月に開催 受講者3人 修了者3人

オ ボランティア養成研修

新型コロナウイルス感染予防のため、開催することができませんでした。

③ ボランティア活動保険

保険に関する相談、受付、加入手続き、事故処理、調整を行いました。

ボランティア活動保険（加入者数2,111件）

④ 移送支援事業

利用者と運転ボランティアのコーディネート

利用登録者22人に対し、運転ボランティア4人、ボランティアセンター職員2人により年間延べ124件の移送支援を行いました。

⑤ ボランティア活動の推進

ボランティア団体の育成および連絡協議会への支援

飯塚市ボランティア連絡協議会として、各地区のボランティア連絡協議会およびそれに所属するボランティア団体の活動を支援しました。

(8) 障がい者福祉活動の推進

① 障がい児者バスハイク

今年度は新型コロナウイルス感染対策を行い、障がい児者間の交流やボランティアとの交流を図るためのバスハイクを11月19日（日）に開催しました。

参加者は、32人で、福岡市 福岡タワー展望台見学（会食と買い物）へ行きました。

② 飯塚国際車いすテニス大会の支援

毎年、国内外の身体障がい者間のスポーツの交流や相互理解などを目的とした車いすテニス大会に対して大会出場選手に対する送迎などの支援を行いました。

③ さわかスポーツ大会

毎年、飯塚市が主催するさわかスポーツ大会の実行委員として、大会運営を支援していましたが、今年度は大会自体が中止になりました。

(9) 子育て、児童・青少年福祉活動の推進

子育て分野の事業として当事者同士の交流を目的とした「子育てサロン・おやつとこっと」を開催しました。開催地区の民生委員・児童委員や主任児童委員をはじめ、ボランティアの方々の協力を得て年12回サロンを開催しました。延べ67組138人の参加がありました。

(10) その他の地域福祉活動

- ① 社協だよりの発行、年3回（6月、10月、2月）
- ② 10月15日（日）「みんなの健幸・福祉のつどい2023」
- ③ 福祉関係団体への運営費助成および事業支援
- ④ 心配ごと相談所運営（相談件数21件）
- ⑤ 福祉用具貸し出し（車いす・松葉杖）延べ206件
- ⑥ 共同募金運動への協力
- ⑦ シルバー陶芸教室年間延べ利用者数 381人

(11) 支所（エリアごと）地域福祉推進事業報告

◎飯塚エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① 赤い羽根ねんりんバスハイク・一人暮らし高齢者会食会

8地区社協で、地域交流や社会参加、仲間づくりにつなげていくことを目的に、一人暮らし高齢者、高齢者世帯の方々を対象とした「バスハイク」や「会食会」を実施することを支援しました。

② 赤い羽根ふれあい給食サービスの実施

6地区社協で、一人暮らし高齢者を対象に行う配食サービスを支援しました。

③ 在宅介護者の会「つくしの会」活動の支援

在宅で寝たきりの方や認知症高齢者を抱える介護者の会（毎月開かれる定例会・研修会・リフレッシュ行事など）に参加し助言や支援など年10回支援をしました。

2) 児童・青少年福祉活動の推進

福祉体験や総合学習の支援

児童・生徒を対象に、障がい者や高齢者への正しい理解と知識を深める事を目的として、手話や点字、車いすの操作や認知症の理解、障がい者との交流など、福祉教育の充実を図るため、市内の小中学校と協力して支援を行いました。

3) 地区（校区）社協との連携と地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動の支援と推進

ボランティアや民生委員・児童委員、福祉委員、自治会長を中心に1～2ヶ月に1回程度実施されているサロン向けに、さまざまな趣味や特技、資格をもった「特技ボランティア」を求め、登録を行い、紹介を行いました。

② 地区「ふれあい電話」活動の推進

地区社協によっては、地域において見守りが必要な一人暮らし高齢者、高齢者夫婦の方々を対象にした「ふれあい電話相談」の活動を推進しました。

③ 地域ふれあい活動事業の実施

コロナウイルス感染予防のため、地区社協を基盤とした、親子球技大会、グラウンドゴルフ大会、ウォークラリー大会、どんど焼き祭りなどの活動は、少人数での開催を行うなど新たな取り組みを行いながら、事業を進めました。

④ 福祉委員の設置推進

福祉委員を配置し、見守りが必要な一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、障がい児者などの訪問活動を支援しました。

⑤ 福祉委員研修会の開催

福祉委員研修会については、市社協主催1回と各地区（校区）社協主催1回の合わせて年間2回の研修会を行っていますが、新型コロナウイルス感染対策を十分に行い、9地区開催することが出来ました。

⑥ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会との連携強化

9地区社協で開催されるネットワーク委員会に参加し、連絡調整ならびに事業推進の支援を行いました。

⑦ 民生委員・児童委員協議会との連携

9地区で毎月開催される民生委員・児童委員協議会の会議に出席し、地域の要援護者ケースに係る検討会へ参画しました。

4) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

② 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金の協力を行いました。

③ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、心配ごと相談所を奇数月に1回開設しました。

5) 各地区まちづくり協議会への参画

各地域コミュニティの構築と活性化に向けて設立された「まちづくり運営協議会」に、協力団体として、会議に出席し、組織運営・事業内容の打ち合わせや地域課題とその解決策などについて協議に参画しました。

◎穂波エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① 在宅介護者の会「かたらい」の活動支援

毎月第3水曜日を定例会とし、会員のリフレッシュを目的として開催しています。情報交換をはじめ、他の介護者の会との交流会など活動の支援を行ないました。

② 一人暮らし緊急入院「安心箱」の推進

利用件数 4 件

2) 障がい者福祉活動の推進

① テレホンサービス事業

声のボランティアサークル「穂声（すいせい）」に毎週月曜日、内容を更新してテープに吹き込んでもらい、フリーダイヤルで視覚障がい者への情報提供を行いました。

② 市報などのテープ吹き込み配布事業（音訳）

声のボランティアサークル「穂声（すいせい）」が社協だよりの吹き込みを行いました。さらに、交流センターだよりや支所だより、その他の情報をテープに吹き込み・ダビング・発送の一連の作業も行いました。

3) 児童・青少年福祉活動の推進

① 社会福祉推進校事業の推進

穂波支所管内の各小学校と連携して車いす体験、アイマスク体験、手話や点字の講習、高齢者疑似体験、環境福祉などについて児童に対する理解を深める授業に年間4回参加しました。

② 春休み福祉体験校の開催

穂波地区の各小学校へ参加募集を行い、5名の参加者で車いす生活者の話し、車いす体験、SDGSについて考えるワークショップを通じて障がい者福祉について学習しました。

③ 子育て広場の開催

子育て支援として同じ世代のお子さんを持つ親同士の友達作りの場と子どもとのスキンシップの取り方などを学ぶという二つの目的をもって開催しています。4か月を1クール制（但し、5月～7月のみ3ヶ月で1クール）とし、連続して同じメンバーで集まることで交流を深めています。令和5年度は年11回の開催で平均10組の親子の参加がありました。

4) 地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動への支援と推進

新型コロナウイルス感染の影響が少なくなり、サロンを再開する自治会も多くなりました。会場である自治会公民館などに、福祉団体が開催する介護予防教室へ出向き、講話やDVD上映会、レクリエーション遊具を活用したり、特技ボランティアやその他の講師の派遣や調整を行いました。

② 校区社協活動の支援

各校区社協の事業企画・実施の支援ならびに活動費の助成を行いました。

③ 福祉委員活動推進と強化

毎月第3火曜日に定例会を全10回開催しました。福祉委員が地域福祉のアンテナ役として活動していただくため、高齢者を対象とした「ニセ電話詐欺・防災対策・赤い羽根共同募金」などをテーマとした研修会を開催しました。

④ 自治会長会との連携

年間3回出席し、赤い羽根共同募金や賛助費、各事業への協力依頼を行いました。

⑤ 民生委員・児童委員協議会との連携

定例会へ参加し、各事業実施のための調査や調整、配布物の依頼などを行いました。

⑥ 校区社協連絡会の開催

穂波地区内の6校区の社協会長・副会長・事務局長に参加をいただき、先進地視察研修会を開催しました。視察先は、うきは市社協で研修内容は、「生活支援体制整備事業：協議体の立ち上げ」をテーマに説明していただき、意見交換も活発に行われ、充実した研修会となりました。

5) ボランティア活動の推進

ボランティアなど連絡協議会との連携

第3木曜日の定例会資料の作成、ボランティア団体への連絡調整ならびに年3回発行しているボランティア情報誌の編集などの支援を行いました。

ボラ連主催行事の「We Love 穂波川」は、穂波ボランティア連絡協議会の会員35名で実施しました。

6) その他の活動の推進

① 穂波地区福祉賛助費

穂波地区の福祉活動を促進するため、賛助費募金について全戸にチラシを配布し、協力依頼しました。令和5年度穂波地区福祉賛助費 835,873円

② 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

③ 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。

④ 心配ごと相談の実施

民生委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、奇数月に1回の心配ごと相談所を年間6回開設しました。

⑤ 支所だよりの発行

年間4回（5月15日、8月15日、10月15日、1月15日）発行しました。

7) 穂波地区まちづくり協議会への参画

穂波地区地域コミュニティの構築と活性化に向けた取り組みとして、穂波交流センターの働きかけにより設立された校区まちづくり運営協議会に協力団体として、まち協主催の事業に参加しました。

◎筑穂エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① ひまわり友の会（一人暮らし高齢者会食会）の開催

令和5年度も昨年同様、新型コロナウイルス感染予防のため、「会食会」を中止し、代わりに筑穂地区民生委員・児童委員のみなさんにご協力いただき、75歳以上の一人暮らし（270人）の方に記念品の配布を行ないました。

② 在宅介護者の会『桜の会』の開催

在宅で寝たきりや認知症などの家族を介護している方の交流の場として、「オレンジカフェ」と合わせて会合を年13回開催しました。

③ 「あんしん携帯カード」と「ふれあい・ほっとライン」の普及

75歳以上の一人暮らしの方を対象として、緊急連絡先やかかりつけの病院などを記載した「あんしん携帯カード」と、安心筒に「ふれあい・ほっとライン」の用紙入れ、冷蔵庫で保管するタイプに切り替えを行い、民生委員・児童委員の協力のもと、更新と新規合わせて325人の方に配布しました。

④ 筑穂地区「健幸講座」（飯塚市主催事業）への協力

飯塚市が、フレイル予防・介護保険啓発・健幸ポイント事業の促進を目的として開催した「健幸講座」に共催として筑穂地区社協が参加しました。多くの方に「健康寿命」に関心をもつていただき、また、生活体制整備事業で推進している介護予防事業へ繋げる取り組みとして、生活支援コーディネーターがかかわりました。

2) 障がい者福祉活動の推進

おもちゃ図書館の運営

当事者および家族などからの利用申し込みにより随時開館し、年間延べ利用者53人の利用がありました。

3) 地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動の支援と推進

5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことで、サロン活動が徐々に活発になり、会場である自治会公民館などのサロンに出向き、講話やDVD上映会、レクリエーションなどを実施したり、サロン特技ボランティアや介護予防の講師の派遣の調整を行いました。

② 介護予防講座「ふれあいマーじゃん」の開催

脳トレーニングの一環である「ふれあいマーじゃん」は年間延べ24回開催しました。

③ いきいきサロンボランティア「にこにこリズム体操」指導員研修会

いきいきサロンでの介護予防メニューの普及を支援する「にこにこリズム体操」指導員の方々(21名)に集まっていただき、毎月第3金曜日にスキルアップ研修を行いました。

④ ふれあいフェスタちくほの開催

広く一般の方に地域福祉を理解していただくために、各種福祉団体から実行委員を選出し、地域の方々がふれあい、交流できる場をつくることを目的とし、10月29日(日)に4年ぶりに開催しました。

⑤ 自治会長会との連携

令和5年度も、賛助会員加入の依頼、共同募金への協力依頼、地区社協・ネットワーク委員会の事業についての説明や協力依頼などを行いました。

⑥ 民生委員・児童委員協議会との連携

毎月開催される民生委員・児童委員協議会へ参加し、「ひまわり友の会」などの実施案内、福祉委員活動への協力依頼などを行いました。

⑦ 地区社協・3校区地域福祉ネットワーク委員会の支援

筑穂地区社会福祉協議会、大分・上穂波・内野校区地域福祉ネットワーク委員会の運営を支援しました。

⑧ 福祉委員連絡会の開催

活動の交流や意見交換、研修などについて連絡会を9月14日に開催しました。

4) ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会との連携

ボランティア連絡協議会の会議を5月17日に開催し、各団体の前年度の活動報告や活動計画等の意見交換を行い、連携、協働を図りました。

② ふれあい電話の実施

毎週水曜日に、一人暮らし高齢者などに対して電話による安否確認を行うボランティアサークルの活動を支援しました。

5) その他の活動推進

① 福祉活動賛助会費

筑穂地区の福祉活動を促進するため、賛助会費募金について全戸にチラシを配布し、協力依頼しました。令和5年度筑穂地区福祉活動賛助会費 1,263,000円

② 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

③ 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。

④ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、偶数月に心配ごと相談所の開設をしています。令和5年度は、年間6回行いました。

6) 筑穂地区まちづくり協議会への参画

筑穂地区地域コミュニティの構築と活性化に向けた取り組みとして、筑穂地区まちづくり協議会の各種会議に出席し、組織運営・事業の実施や手順などについての打ち合わせや地域課題とその解決策についての協議を行いました。

◎庄内エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① 一人暮らし高齢者交流会の開催

庄内地区上区（6月）・中区（11月）・下区（3月）の3回に分けて実施しました。

② 三世代交流会「高齢者と庄内中学校との交流会」の開催

7月2日に飯塚吹奏楽団と庄内中学校吹奏楽部による演奏会を実施しました。総勢139名と大変多くの方にご参加いただきました。

2) 障がい者福祉活動の推進

庄内地区 障がい者バスハイク

11月19日、13名参加で「太刀洗平和祈念館」の観覧と「会食会」を実施しました。

3) 児童・青少年福祉活動の推進

福祉体験事業

6月14日、庄内小学校4年生を対象に福祉体験（車いす、アイマスク）の授業を行いました。参加者数は、児童105名でした。

4) 地域福祉活動の推進

① 自治会長会との連携

庄内地区社協や地域福祉ネットワーク委員会をはじめ、地域福祉活動について協力の依頼を行いました。

② 民生委員・児童委員協議会との連携

3 役会、定例会に出席し、事業への参加要請や身近な情報提供などを行いました。また、生活支援体制整備事業で行ったアンケートをもとに庄内地区協議体で作成した「庄内地区ちょっと頼みたい有料サービス」の冊子を単身、二人暮らしの高齢者世帯へ配布していただきました。

③ 小地域福祉活動の推進

ア 福祉委員研修会を5月26日と1月16日、計2回行いました。

イ ふれあい・いきいきサロンの運営に対し、サロンの実施などの相談・支援を行いました。(令和5年度、12自治会で実施)

④ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会の支援

総会を5月12日、運営会議を10月12日と2月21日の計3回行いました。

5) 庄内地区第2層協議体

生活支援体制整備事業で行ったアンケートをもとに庄内地区協議体で作成した「庄内地区ちょっと頼みたい有料サービス」の冊子を単身、二人暮らしの高齢者世帯へ民生委員さんの協力で配布していただき、依頼される方の層の拡大を試みました。

令和5年度の利用者実績 20件

6) ボランティア連絡協議会の活動支援

定例会や植栽、廃油石鹸作りなどを実施し、活動支援を行ないました。

7) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティーワーカー(福祉活動専門員)が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

② 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金活動などに協力しました。

③ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員、人権擁護委員である相談員の協力を得て、奇数月に1回の心配ごと相談を開設しました。

④ 支所だよりの発行

年間2回(9月15日、3月15日)に発行しました。

⑤ レクリエーション遊具(用具)の貸し出し

庄内地区の介護予防や子どもたちとのコミュニケーションツールの1つとして貸し出しを行いました。

⑥ ボランティア研修会

8月に計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になりました。

⑦ 男性料理教室

12月8日、飯塚市食生活改善推進会庄内支部の皆さんに協力をいただき、参加者10人、協力関係者含め18人で料理教室を行いました。

◎ 穎田エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① 給食サービスの支援

穎田地区社協、民生委員・児童委員協議会穎田支部の協力を得て、給食サービスを実施しました。

対象者：80歳以上の一人暮らしの方、毎月第3木曜日（年11回）、年間延べ580食

② 高齢者とボランティアのつどいの開催

穎田訪問ボランティアさつき会と共催で、高齢者のつどいを開催しました。

場所：上勢田西自治会 参加者数：34人

③ 高齢者記念品配布事業の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、高齢者のつどいは出来ませんでしたが、代替事業として、80歳以上の一人暮らし高齢者の方へ敬老祝いとして記念品を配布しました。

④ 健幸講座の開催

穎田地区地域福祉ネットワーク委員会、穎田地区社会福祉協議会が主催し、穎田地区の多くの方に健康づくりや健幸ポイント事業に興味を持っていただけるように、取り組みました。
(年間参加者数：214名)

⑤ 地域での福祉講話活動

穎田地区民生委員・児童委員協議会の協力のもと、75歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、高齢者のつどいや健康・介護予防教室への参加意識を把握することを目的にアンケート調査を行いました。

2) 障がい者福祉活動の推進

手をつなぐ親の会活動の支援

4月16日（日）の総会、9月17日（日）の定例会、11月26日（日）バスハイク、12月10日（日）のクリスマス会に参加しました。

3) 児童・青少年福祉活動の推進

① 3世代交流事業の実施

穎田地区体育振興会の協力を得て、3月2日（土）に3世代交流ボッチャ大会を開催いたしました。（大人39名、子ども13名）

② 穎田子育てサポートジャムとの連携

毎月第1、第3木曜日に穎田高齢者福祉センターで開催されている「じゃむんち」の活動を支援し、親子でいつでも参加できる居場所づくりと、子どもに関する悩みを共有し、支援が必要な場合には、ジャムと社協がすぐに連携できるような体制づくりに取り組みました。

4) 地域福祉活動の推進

① 自治会長会との連携

5月に自治会長会の総会に出席し、穎田地域だよりの配布協力、赤い羽根共同募金、地区社協・ネットワーク委員会の事業についての協力依頼を行いました。

② 民生委員・児童委員協議会との連携

毎月第2水曜日に開催される定例会に出席し、福祉活動について連携を図りました。

③ 地区社会福祉協議会、地域福祉ネットワーク委員会の支援

ア 地区社協と地域福祉ネットワーク委員会の総会と、合同会議を年12回開催しました。

イ 穎田高齢者福祉センターの管理、運営を行いました。

(入館者：年間 3,589人)

5) ボランティア活動の推進

訪問ボランティア団体「さつき会」活動の支援

毎月1回定例会に出席し、ケース検討など活動の支援を行いました。

6) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

② 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。

③ 心配ごと相談の実施

偶数月に年6回、民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、心配ごと相談所を開設しました。

④ 地域だよりの発行

年間4回（5月15日、8月15日、11月15日、2月15日）発行しました。

3. 介護保険等関連事業

(1) 介護保険事業

① 居宅介護支援事業

- ・ケアプラン作成、管理年間延べ件数 3,706件
[飯塚支所] 1,748件 [穂波支所] 1,958件

② 介護予防居宅介護支援事業

- ・予防プラン作成、管理年間延べ件数 549件
[飯塚支所] 271件 [穂波支所] 278件

飯塚支所は、職員の補充ができず1名減での事業展開となり155件減りました。

穂波支所は、7月より職員の補充ができましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く130件減りました。

③ 訪問介護事業

- ・年間延べ派遣回数 9,958回

④ 介護予防訪問介護事業

- ・年間延べ派遣回数 4,988回

2事業所を統合することで事務的業務の集約化及び職員の業務負担の軽減を図り運営しました。しかし職員の退職や入院・入所の利用者が新規獲得利用者を上回ったため、2,411回減りました。

⑤ 通所介護事業 [筑穂]

- ・年間延べ利用者数 6,718人

⑥ 介護予防通所介護事業 [筑穂]

- ・年間延べ利用者数 2,406人

長期にわたる外出自粛の影響によるレベル低下に伴い、入院や施設入所者が増えましたが、新型コロナウイルス感染症が5類となり少しずつ通常に戻りつつ、延べ利用者数は135人増えました。

⑦ ユニット型小規模介護老人福祉施設 [筑穂桜の園]

- ・入所定員 30人

新型コロナウイルス感染症が5類に緩和されたこともあり、新規の入所申込者が増加し1日の平均利用者数は27.5人となり、1.5人増えました。

⑧ 短期入所生活介護事業 [筑穂桜の園]

- ・年間延べ利用人数 1,423人

入所同様に、新型コロナウイルス感染症が5類に緩和されたこともあり、新規利用者や利用回数が増え、452人増えました。

(2) 地域支援事業

① 穂波東地域包括支援センター

- ・総合相談年間延べ件数 729件
- ・包括的、継続的ケアマネジメント年間支援件数 84件
- ・指定介護予防サービス年間実績件数 1,157件 (穂波東包括：889件 委託先居宅：268件)

- ・介護予防ケアマネジメント年間実績件数954件（穂波東包括：658件：委託先居宅：296件）
- ・福祉サービス代行申請年間延べ件数 22件
- ・運営推進会議年間延べ回数 15回

総合相談件数が昨年度に比べ256件増加し、3職種（社会福祉士・看護師・主任ケアマネジャー）が主に対応する中、並行して予防介護プランの作成も行いました。また職員の退職入職に伴い、昨年度に引き続き業務負担の大きい年度となりました。

② 筑穂地域包括支援センター

- ・総合相談年間延べ件数 481件
- ・包括的、継続的ケアマネジメント年間支援件数 139件
- ・指定介護予防サービス年間実績件数1,423件（筑穂包括：1,000件 委託先居宅：423件）
- ・介護予防ケアマネジメント年間実績件数 1016件（筑穂包括：724件 委託先居宅：292件）
- ・福祉サービス代行申請年間延べ件数 25件
- ・運営推進会議年間延べ回数 19回（中止2回）

高齢者数や要支援者・事業対象者数の増加から、相談件数やケアマネジメント件数など、全てにおいて増加しました。また山間部や広範囲に渡る地域からの、独居で身寄りのない方や精神疾患、虐待などの相談も増えました。

③ 食の自立支援事業（配食サービス）[筑穂]

- ・年間延べ配食数 8,288食

比較的元気だった方が介護状態となり在宅生活継続が困難となるケースや、夫婦利用者の中止が相次ぎ1,344食の減となりました。また、配達範囲の広さからパート職員一人を採用しました。

④ 高齢者住宅等安心確保事業（シルバーハウジング生活支援員派遣事業）

- ・入居者数 23戸（令和5年3月末現在）

入居者数は、1戸減りました。

飯塚市担当課と情報共有を行うとともに、日々朝夕の巡回・声掛けにより入居者の生活支援を行いました。また今年度は、休日夜間緊急呼び出しにも数回対応しました。

⑤ 飯塚市ヤングケアラー・支援対象児童等訪問支援事業

新規開始事業。今年度、飯塚市からの訪問依頼は無く、年間実績はありません。

(3) 障害福祉サービス事業

① 訪問介護事業

- ・年間延べ派遣回数 7,276回

新規利用者の受け入れや、ゆめタウン開業に伴う同行援護による買物支援など、359回増加しました。

② 相談支援事業 [飯塚]

- ・ 計画作成、管理年間延べ件数 177件
相談支援専門員が1名退職し3名となり他職種と兼務しながらも、新規利用者を受け入れ17件増加しました。

③ 児童デイサービス [筑穂]

- ・ 年間延べ利用者数 1,988人
各児童が通っている保育園や幼稚園で、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症がまん延し、当事業所も余波を受けましたが、59人増えました。

④ 障がい者支援センター [筑穂]

- ・ 年間延べ利用者数（生活介護） 1,496人
昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響は受けましたが、328人増えました。

(4) 地域生活支援事業

移動支援事業 [飯塚]

- ・ 年間延べ派遣回数 17回
新型コロナウイルス感染症が5類に緩和されたものの、引き続き影響は大きく、外出を控える傾向にあり、16回減りました。

(5) 制度外サービス事業

- ・ 年間延べ派遣回数 76回 [飯塚]
介護保険制度、障害者総合支援制度、地域支援事業などの制度を補完するサービスとして本会が独自に実施している事業であり、制度では対応できない部分の生活援助や外出介助および通院介助、家族不在時の見守り支援などを行いました。昨年度比は39回減りました。

(6) 筑豊地区福祉人材バンク

福岡県社協から事務委託を受けている事業であり、福祉人材無料職業紹介所として、福祉の仕事を希望する人と、人材を必要とする社会福祉施設・事業所等の福祉職場をつなぐことを目的としています。新規求人数609人、新規求職者数24人、インターネットアクセス数13,278件、応募・紹介者数10人、就職者数5人、求人求職相談件数130件でした。県社協との協力で行う就職フェアを、今年度はイイヅカコスモスコモンにて開催しました。

4. 法人運営関連事業

(1) 筑穂保健福祉総合センターの管理運営

飯塚市との協定書に基づき、住民の健康増進と福祉の拠点として管理運営を行いました。

- ・ 健康運動室年間延べ利用者数 6,460人
- ・ 会議室など年間延べ利用回数 360回

(2) 飯塚市福祉センター伊川の郷の管理運営

施設の運営経費を賄うレース場自販機の収益が、レース場改修工事等の影響で激減し、法人からの運営費補填が昨年度よりさらに増えた状況でした。

- ・ 飯塚市福祉センター伊川の郷年間延べ来館者数 436人

(3) 収益事業

自主財源の確保策として以下の収益事業に取り組みました。

- ① 飯塚オートレース場に自動販売機手数料収入・・・ 2,500,393円(10台)
- ② 社協だよりへの有料広告掲載料収入・・・・・・・・ 96,000円(4件)
- ③ 社協公用車への有料広告掲載料収入・・・・・・・・ 120,000円(2件:2台)

5. 社協改革推進事業

(1) 飯塚市福祉センター伊川の郷の運営課題への対応

飯塚市福祉センター伊川の郷は「浴場施設」の老朽化と度重なるボイラーや配管等の故障や不具合で休止状態が続く中、本会の厳しい財務状況にも加え、諸物価高騰の影響が同施設の経営を更に深刻化させていく懸念が大きいことから、浴場施設については令和5年7月末をもって廃止いたしました。

なお、同施設では浴場施設以外の貸室業務等は通常どおり継続しておりますが、引き続き経費削減を図りながら、今後の利活用のあり方について関係者とともに検討を進めています。

(2) 本会所有資産の運用に係る課題への対応

本会所有資産である平恒の所有地については、令和5年度に売却処分することが決定し、年度内の売却を目指して一般競争入札による手続きを行いました。本会が設定する売却最低価格等の要件で応札する業者がいなかったため結果的に売却に至りませんでした。

これを踏まえ、現下での適正価格を知るために不動産鑑定を行う必要があるとの認識のもと、改めて売却に向けて速やかにこれを取り行う準備を進めています。

(3) 市委託事業「重層的支援体制整備事業（移行事業）」の開始業務

受託1年目の令和5年度は、多機関協働事業者として包括的相談支援体制の構築をめざして市内相談支援事業者一覧（データ版）の作成や地域生活課題に潜在する複雑・複合的な事例をもとにした「支援会議」の試行的実施、また、包括的相談支援機関（4分野）の連携会議の立ち上げなどに関わり、入口支援である相談支援事業の基盤づくりを進めてまいりました。

(4) 県社協委託事業「生活福祉資金貸付事業（本則・相談支援事業）」の展開業務

令和5年度の生活福祉資金貸付事業は、本則部分である通常業務に加え、コロナ禍における特例貸付の償還開始に伴う相談支援業務を引き続き受託し、とくに後者ではアンケート形式による現況調査を実施する中、償還手続きに問題を抱えるケースや経済的に償還が困難なケースなど支援課題が明らかとなりました。

6. 会議、研修会

本会が開催した各種会議・研修会について報告します。

(1) 理事会 (第94回～第97回)

回	開催日	議 題
94	令和5年6月8日	<p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和4年度事業報告について 2 令和4年度資金収支決算報告について 3 令和5年度第1次資金収支補正予算について 4 役員（理事・監事）候補者の推薦について 5 評議員選任候補者の推薦について 6 第13回評議員選任・解任委員会の招集について 7 第58回評議員会の招集について 8 飯塚市福祉センター伊川の郷について <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会長及び常務理事の職務執行報告について 2 総務委員会委員長報告について
95	令和5年6月23日	<p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会長の選定について 2 副会長の選定について 3 常務理事の選定について 4 事務局長の選任について 5 評議員選任・解任委員会委員の選任について 6 苦情解決第三者委員の選任について 7 各委員会委員の選任について
96	令和5年12月4日	<p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度第2次資金収支補正予算について 2 基本財産土地（平恒608番1及び777番3）の処分について 3 基本財産土地（平恒608番1及び777番3）の処分方法について 4 第59回評議員会の招集について <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度第1回地域福祉委員会委員長報告について 2 令和5年度第2回総務委員会委員長報告について 3 准職員（2種）就業規則の一部改正について 4 飯塚市生活困窮者自立相談支援等業務委託について
97	令和6年3月6日	<p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度第3次資金収支補正予算について 2 令和6年度事業計画及び資金収支予算について 3 職員給与規程の一部改正について 4 定款の一部変更について 5 筑穂支所における給食業務の委託契約について 6 第60回評議員会の招集について <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会長及び常務理事の職務執行報告について

		2 地域福祉委員会委員長報告について 3 介護福祉委員会委員長報告について 4 基本財産土地（平恒 608 番 1 及び 777 番 3）について
--	--	---

(2) 評議員会（第 58 回～第 60 回）

回	開催日	議 題
58	令和 5 年 6 月 23 日	【協議事項】 1 令和 4 年度事業報告について 2 令和 4 年度資金収支決算報告について 3 令和 5 年度第 1 次資金収支補正予算について 4 理事及び監事の選任候補者の選任について 【報告事項】 1 飯塚市福祉センター伊川の郷について
59	令和 5 年 12 月 19 日	【協議事項】 1 令和 5 年度第 2 次資金収支補正予算について 2 基本財産土地（平恒 608 番 1 及び 777 番 3）の処分について 3 基本財産土地（平恒 608 番 1 及び 777 番 3）の処分方法について 【報告事項】 1 飯塚市生活困窮者自立相談支援等業務委託について
60	令和 6 年 3 月 15 日	【協議事項】 1 令和 5 年度第 3 次資金収支補正予算について 2 令和 6 年度事業計画及び度資金収支予算について 3 定款の一部変更について 【報告事項】 1 基本財産土地（平恒 608 番 1 及び 777 番 3）について

(3) 評議員選任・解任委員会（第 13 回）

回	開催日	議題
13	令和 5 年 6 月 8 日	【協議事項】 1 評議員選任候補者の選任について

(4) 総務委員会

回	開催日	議 題
1	令和 5 年 5 月 23 日	【協議事項】 1 飯塚市福祉センター伊川の郷について
2	令和 5 年 11 月 16 日	【協議事項】 1 基本財産平恒（中野）の土地について 2 理事定数及び評議員定数について 【報告事項】 1 准職員（2 種）就業規則の改正について 2 飯塚市生活困窮者自立相談支援等業務委託について

(5) 介護福祉委員会

回	開催日	議 題
1	令和6年2月13日	【報告事項】 1 介護保険等事業の実施状況について 2 ヤングケアラー訪問支援事業及び障害支援区分認定調査の業務委託について 3 外国人材の雇用について 4 令和6年度報酬改定に伴う事業の見通しについて 【協議事項】 1 令和6年度事業計画（案）について 2 介護職員等処遇改善支援補助金について

(6) 地域福祉委員会

回	開催日	議 題
1	令和5年11月28日	【報告事項】 1 地域福祉活動の進捗状況 ①介護予防事業の取り組み状況について ②7月豪雨大規模災害の支援について 【協議事項】 1 委員会運営（副委員長選出）について 2 地域福祉事業 事業助成の見直しについて
2	令和6年1月30日	【協議事項】 1 令和6年度飯塚市社会福祉協議会事業計画（案）について 2 令和6年度共同募金配分金事業地区（校区）社協事業助成について（見直し） 3 令和6年度福祉団体助成金の交付について

(7) コミュニティワーカー会議：年7回開催

(8) 介護保険等管理者会議：年10回開催

(9) 人権・同和研修会

全職員対象に年1回以上の参加義務を課した。

（市内で開催される各種人権研修への参加又は、事業所で開催する人権研修への参加）

(10) 安全運転講習会

全職員対象に年1回の参加義務として実施した。

（事業所ごとなどで少人数にて分散開催又は個人での研修動画の視聴）